

おokayamaコーディネータ連絡協議会の活動紹介

○新倉正和（岡山理科大学）、藪木伸一（(元) つやま新産業創出機構）、藤原貴典（岡山大学）

はじめに

おokayamaコーディネータ連絡協議会は、企業ニーズと大学・研究機関の持つ研究成果のマッチング活動を行っているコーディネータ同志の連携を強化し、相互の交流・情報の共有化およびコーディネータ能力の向上を図ることを目的として、平成17年11月に発足した。現在、8年目を迎え、定着しつつあるが、本報告では活動の特徴について紹介する。

活動の特徴

1. face to faceのネットワーク形成

各所属機関からのニーズ・シーズ情報交換会、県下産学官連携クラスターの活動紹介、コーディネータ事例紹介などを実施し、お互いの情報共有を図って、風通しを良くすることに務めている。会員としてのオブリゲーションなどを敢えて無くし、肩の力を抜いてお互いが親密になることを理想と考え、face to faceのネットワーク形成に心がけている。

このネットワークの輪を広げるため、これまで中小企業の経営にパイプのある金融機関の営業部隊の方にも会員参加・運営委員会参画をお願いし実現している。また、地域的な距離を縮めるため、県北での会合開催を意識的に実施している。現在は、近年注目されている農商工連携分野におけるコーディネータの参加も拡大しつつある。

2. 産学官連携活動の裾野拡大

中小企業においては、依然として、産学官連携活動や補助金などへのアンテナが低く、また大学・研究機関への敷居が高いのが実情である。本協議会では、中小企業を対象とした、補助金制度活用・紹介セミナーを開催し、申請方法のアドバイスや採択するためのコツ指導などを実施している。更には、本協議会会員は、本協議会以外の産学官連携活動にも常時参画し、あらゆるパイプを通じて、未開拓の産業分野や企業グループにアプローチし、裾野の拡大を図っている。そのような活動の中から、企業サイドにおける具体的ニーズ情報が得られた場合、企業訪問を実施し、共同研究や産学官連携を促進するような実践的な活動を目指している。

表1 おokayamaコーディネータ連絡協議会 会員構成

機関団体の種類	機関団体数	会員数	職位の代表例
大学・高専	5	19	産学官連携本部、産学官連携コーディネータ
経済団体	3	5	地域対策課、中小企業振興部
銀行	3	3	金融営業部、営業支援部コンサルティング営業部
財団、工技センター	2	10	コーディネータ、プロモータ
クラスター会議	3	7	コーディネータ（農商工連携を含む）
インキュベーション	3	8	インキュベーションマネージャ
地域振興団体	2	5	アドバイザー、コーディネータ
知的財産	2	2	弁理士、知財専門コーディネータ
その他	2	2	民間組織代表
合計	25	61	